



アレルギー・自己免疫・がん免疫における
免疫抑制受容体PirBの役割

高井 俊行 博士

東北大学加齢医学研究所

平成24年1月20日（金）午後17：00-18：30

健康医科学イノベーション棟8階講堂

講演要旨

免疫抑制システムの理解とその医療・創薬への応用が待望されている。B細胞や骨髄系細胞、および神経細胞に発現する、免疫抑制性の受容体であるマウスPaired immunoglobulin (Ig)-like receptor B (PirB) は、ヒトLeukocyte Ig-like receptor (LilrB) と相同関係にあり、MHCクラスI (MHCI) が主要なリガンドのひとつである。PirBの発現細胞は限定される一方、MHCIの発現はほとんど全ての細胞上に普遍的に見られるため、PirBとMHCIとの結合は恒常的に維持され、そのシグナル伝達も恒常的、自動的に維持されているのではないかと考えられる。最近、神経系において神経軸索伸長阻害因子として知られていたNeurite outgrowth inhibitor protein (Nogo) 等が少なくとも中枢神経系に発現するPirBのリガンドとしてはたらくことが示された。我々は現在、Nogo等およびMHCIの視点からPirBを介するアレルギー・自己免疫・がん免疫の制御を理解したいと考えている。セミナーでは我々が想定するPirBを中心とした免疫抑制システムについて議論したい。

問い合わせ先： 免疫学・渋谷 彰 (ashibuya@md.tsukuba.ac.jp)
TEL: 029-853-3281